

令和2年4月1日

令和2年度 東京都立南多摩中等教育学校 学校経営計画

東京都立南多摩中等教育学校

校長 永森比人美

1 目指す学校

心・知・体のバランスのとれた「人間力」を育む教育を推進する。

イノベティブなグローバル人材を育成する。

2 中長期目標と方策

(1) WWL コンソーシアム構築支援事業の拠点校としての取組を推進する。

方策

- ① 文理融合とグローバルな社会課題研究を踏まえたカリキュラムを実動させる。
- ② 探究学習と教科学習の連携を強化する。
- ③ 本校独自の探究学習についてのテキストを作成・印刷し公開する。
- ④ 高校生国際会議に生徒を参加させる。
- ⑤ 国内外の大学、企業、国際関係機関と協働し、高度な学びの場を提供する。

(2) 深い思考力や探究心を育み、学び続ける姿勢を培う。

方策

- ① フィールドワーク活動の一層の充実を図る。
- ② 生徒の「主体的な学び」を引き出す授業を展開する。
- ③ 6年一貫のキャリア教育を通して、生徒の夢の実現を支援する。

(3) 思いやりの心、克己心、人間関係調整力を育む。

方策

- ① 社会貢献に係る教育活動を推進する。
- ② 生活指導指針に則った基本的な生活習慣を定着させる。
- ③ 異年齢集団の交流を重視した行事を推進する。
- ④ 心の教育の充実を図る。

(4) 体力を向上させ強靱な体づくりを行う。

方策

- ① 部活動を推進し、生徒の体力向上を図る。
- ② スポーツテスト等の数値動向を分析し、指導改善に生かす。
- ③ 体育的な行事の充実を図る。

(5) 教職員の組織力を高める。

方策

- ① 指導上のキーワード「やりきらせる」をスローガンに全教職員が一丸となって「基礎力のある集団」から「突破力のある集団へ」と生徒を導く。
- ② 外部の専門機関や専門家からのアドバイスを積極的に取り入れ、組織改善に生かす。
- ③ 分掌や学年を超えた教員同士の情報共有を図り、全ての校務についてPDCAサイクルを徹底し、企画調整会議の質の向上を図る。
- ④ 業務分担と責任の明確化・仕事の効率化を図り、教育系職員と行政系職員が一体となって明確な目的・課題意識の下に校務を遂行する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

方策

- ① 外部委託の生徒による授業評価を行い、評価データに基づいた研修会を開催し、評価項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる。」の達成率を80%以上にする。
- ② 探究学習の深化やカリキュラム開発に向けて、専門家を招聘した校内授業研究やティームティーチングでの教員との連携を強化し、授業力の更なる向上を図る。
- ③ 理数リーディング校として、グローバル企業、大学及び研究機関との連携の下、フィールドワーク活動による探究活動及び論文作成を通して、理数に対する興味・関心を高めるとともに生徒の多面的・多角的思考力を養う。
- ④ 知的探究イノベーター推進校として、大学、企業、各種研究機関との連携をさらに深め、文・理を越えた価値創造力を鍛える教育を推進する。
- ⑤ 英語教育推進校として、オンライン英会話等の効果的な指導を生かし4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスのとれた英語教育を推進する。外部検定試験等のスコアを伸ばしたり、資格取得を促したりして、各自の英語運用能力を把握させる。
- ⑥ 東京都イングリッシュ・エンパワーメント・プログラムにより派遣されるJET2名を放課後のReading and Discussion講座及びGlobal Scholarsの取組等に関わらせ、生徒の英語を通して様々なテーマに基づく議論ができる能力や他国の同世代の生徒との交流を通して異文化理解に係る能力等を育成する。
- ⑦ 東京体験スクールで留学してくる生徒と共に本校生徒を高校生国際会議に参加させ、国際感覚を身に付けさせるとともに、多角的、多面的な視野を育む。
- ⑧ あらゆる学習活動の機会において主権者教育に取り組み、平和で民主的な国家・社会の形成者として求められる力を培う。
- ⑨ 「道徳」の授業を通して、道徳的価値の自覚を深めさせ社会の様々な場面や状況に応じて適切に選択・行動する能力を育成する。また、人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力を向上させるとともに、人間としての在り方生き方に関する自覚を深めさせ、道徳的実践力を育成する。道徳授業地区公開講座の保護者や地域の参加者数を増やし、授業改善に結び付ける。
- ⑩ 「人間と社会」の授業において、社会の現実には照らした体験活動や演習を通じて道徳性を養い判断基準を高めることで、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成する。

(2) 生活指導

方策

- ① いじめ防止
 - ・いじめのアンケートを活用し、生徒指導部及び各学年によるケーススタディを年3回以上の実施し、いじめの早期発見・早期解決に当たる。
 - ・PTA役員会や生徒会との連携によるいじめの防止策を強化する。
 - ・生徒が作成したSNS東京ルール为学校版を基にして、SNS等への書き込みによるトラブルの防止や携帯電話等を適切に利用することができる資質・能力を養う。
- ② 学級活動、朝礼、学年集会等における講話を通して、社会人として必要である基

本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）を身に付けさせる。

- ③ 八王子警察署との連携の下、「命の講演会」や「犯罪被害者の講演会を開催し、生徒に「命の大切さ」を深く考えさせる機会を与え、心の教育を推進する。
- ④ 産婦人科医及び精神科医を活用して、性に関する教育やメンタル面での支援を行う。

(3) 進路指導

方策

- ① チューターを活用し、自主学習を教員と共にサポートする。
- ② 自習室を整備し、生徒同士の学び合いの機運を醸成する。
- ③ 外部機関を活用した進学指導コンサルティングを通して得たデータを基にして、生徒や保護者の進路面接や進路指導に生かす。
- ④ 大学入学共通テストや難関大学の問題分析、予備校研修の分析会等の参加を通して、教員の受験指導力を向上させる。
- ⑤ 国内外の大学と連携し、大学教授と本校教員の連携を通し各教科の専門性を高める。
- ⑥ 大学の教員と本校教員の懇談会を通して、高大接続の在り方を研究する。
- ⑦ 企業との連携を図り研究所への訪問や企業研究者から生徒への課題の投げかけを通して、課題解決型の生徒の力を高める。
- ⑧ 同窓会あかね会の協力の下、1期生の就職先の把握等、卒業生の進路追跡調査方法を確立する。

(4) 特別活動等

方策

- ① 異年齢集団の交流を取り入れた行事（体育祭、合唱祭、文化祭）を通して、生徒の思いやりの心、人間関係調整力、克己心を培う。
- ② オリンピック・パラリンピック教育の一環として本校を会場とした「夢街道駅伝」に生徒を積極的に関わらせると共に、1年生の体育の授業で東京五輪音頭2020を取り入れ、生徒の中にレガシーとして残る教育を展開する。
- ③ 指導体制の工夫改善及び各部活動で前期課程から後期課程への円滑な指導の接続を図り部活動を活性化し、生徒の体力や気力を向上させる。また、3年生の夏休み明けに実施する接続テストを用いて、生徒に高校生になる心構えをもたせる。
- ④ 防災支援隊の活動の充実を図るため、「東京マイタイムライン」の活用や専門機関（工学院大学等）と連携した防災教育の研究をさらに深める。
- ⑤ 朝読書の推進、図書館の効果的な活用及びビブリオバトルへの生徒の参加を通して、生徒の読書の量や質を向上させる。
- ⑥ 年間保健指導計画に基づき、担任、養護教諭、栄養士、保護者と連携し食育を推進する。
- ⑦ 保健便り、給食便りを発行し、保護者等と連携してアレルギー対応に十分注意を払い、生徒の健康づくりを進める。
- ⑧ オーストラリアの研修旅行を生かし、オリンピック・パラリンピック教育（世界ともだちプロジェクト）の対象国であるオーストラリアとの関わりを深め、言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけではなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる。

(5) 組織体制－「チーム南多摩」としての強固な組織構築

方策

- ① 各分掌・学年の年間業務一覧を作成し、全教員が分掌や学年の壁を越えて業務内容等に関する情報を共有できるようにし、企画調整会議の質を向上させる
 - ② 学校の目指す方向性、校務の進捗状況を職員室に掲示して、教職員が絶えず校務全般に対する状況を把握できる環境を整える。
 - ③ 校務内規等の整備を通して、全教員が同一の視点で生徒の教育に当たれるようにする。
 - ④ OJT 機能を活用して組織運営を行う。
 - ⑤ 校内の言語環境を整えるため、教職員が生徒の範となる言動を心がける。
- (6) 募集対策－学校の魅力を内外にアピール

方策

- ① 塾や小学校への広報活動を積極的に行う。
 - ② 授業公開及、学校紹介、学校説明会の内容の充実を図る。
 - ③ ホームページに新規事項を適時・適切にアップする。
 - ④ 様々な分野の大会やコンテストに生徒を積極的に出場させる。
- (7) 経営企画室との連携

方策

- ① 校長、副校長、室長の毎朝の打合せを通し、経営参画型の経営企画室の運営を行う。
 - ② 適正な自律経営予算の策定と執行に務め、学校全体のコスト意識を高める。
 - ③ 施設・設備の活用状況や修繕箇所の把握を行う。
- (8) 働き方改革について
- ① 教職員は各自週2回の割合で、定時退勤日を設け、年度当初の自己申告書の自由記述欄に記載し、ライフ・ワークバランスの推進に努める。
 - ② 効率的な職務遂行を目指し、フレックス勤務を想定した時間割作成を研究する。

4 今年度の重点目標・目標数値等

(1) 学力向上

- ① 生徒による授業評価において、学習効果の項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる。」の到達率－80%以上
- ② 前期課程－都調査、全国学力学習状況調査、学力推移調査結果で前年度を1ポイント上回る。
- ③ 後期課程－同一学年の外部模擬試験結果で年度末のS段階・A段階の割合が前年度を1ポイント上回る。
- ④ 5年生－国・数・英の3教科で学習到達ゾーンA段階を超える生徒70%以上
C段階の生徒はゼロ
- ⑤ 2年生 (3技能)
GTEC for Students Core 平均505点、受験者の20%以上が570点以上
- ⑥ 3年生 (3技能)
GTEC for Students Basic 平均590点、受験者の20%以上が615点以上
- ⑦ 4年生 (4技能)
GTEC for Students Advanced 平均830点、受験者の20%以上が920点以上

⑧ 5年生（4技能）

GTEC for Students Advanced 平均 870 点、受験者の 20%以上が 1010 点以上

⑨ 留学に挑戦する生徒一年間 1 名から 2 名

(2) 進路指導

① 教員の進路分析会を年間 2 回以上実施

② センター試験入試問題分析集の作成－ 5 月に生徒に配布

③ 難関国公立大学入試分析集の作成－ 7 月に生徒に配布

④ 3 年生－ 1・2 学期に研究開発型大学や研究室訪問を実施

⑤ 4 年生－ 2 学期までに 8 割の生徒が興味ある学問及び希望学部の方向性を決定

⑥ 5 年生－ 9 月までに、9 割以上の生徒が希望学部・学科を具体化

10 月以降は受験体制、3 学期に希望大学を具体化

⑦ 6 年生－ 8 割以上の生徒が研究開発型大学への進学を目指す。

☆ 大学入学共通テスト 5 教科 7 科目受験－ 6 割以上

☆ 大学入学共通テスト・難関国公立大学合格可能点数

(8 割) 水準以上－ 2 割以上

☆ 難関国公立大学合格者数 13 名以上

(3) 生徒の心のケア等に係る数値

① SC 連絡会 前期課程一週 1 回開催、後期課程一月 1 回開催

② いじめのアンケート年間 3 回以上実施（アンケート調査用紙 3 年間保存）

③ 産婦人科医及び精神科医等と連携した講演会をそれぞれ年間 2 回程度実施

④ 特別な支援の必要な生徒の個別指導に資する研修会を年間 3 回以上実施

(4) 募集対策に係る数値

① 適性試験の倍率－ 5 倍以上

② ホームページの更新－ 300 回以上

③ 授業公開、学校紹介・学校説明会等の実施回数及び参加者数

30 回、3500 名以上参加

④ いじめ・体罰服務事故等重大事故ゼロ